

令和2年度・3年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



令和3年10月
鹿児島市立鴨池中学校

目 次

1	はじめに	
(1)	鹿児島市の概要	1
(2)	校区の概要	1
(3)	学校の概要	1
2	研究の概要	
(1)	研究主題	2
(2)	主題設定の理由	2
3	研究の仮説	2
4	目指す生徒像	2
5	研究組織	3
6	租税教育全体計画	3
7	研究の経過	4
8	研究の実際	
(1)	第1回租税教室	5
(2)	特別活動の取組	5
(3)	第2回租税教室	8
(4)	財政教室	9
(5)	税に関する作品	12
9	研究の成果と課題	
(1)	税に関する実態調査の結果	13
(2)	成果と課題	18
10	おわりに	18

1 はじめに

(1) 鹿児島市の概要

鹿児島市は、九州の南端に位置する鹿児島県本土のほぼ中央部にあり、波静かな錦江湾、悠然とそびえる雄大な活火山桜島という世界に誇る自然景観を有した風光明媚な都市である。南九州の中核都市にふさわしい、政治・経済・社会・文化等高次な都市機能が集積した人口 60 万人の県都として発展を続けている。

島津家の城下町として栄え、鹿児島市が藩政の中心となったのは、第 6 代島津氏久公が東福寺城（現鹿児島市清水町）を居城にしたとき（1340 年頃）に始まると言われている。以来 500 年にわたる島津家の統治下のもと、南九州一の都市として着実に繁栄と進展の歴史をつくりあげた。また、明治維新においては、薩摩藩の元勳西郷隆盛・大久保利通などを筆頭にその原動力となり大いに活躍したのをはじめ、黒田清隆・松方正義・山元権兵衛が歴代総理大臣を務め、教育界では森有礼（初代文部大臣）、実業界では五代友厚が、また文化の面でも黒田清輝・藤島武二（洋画家）、有島武郎（小説家）等、幾多の人物を輩出した。

第二次世界大戦の戦火で市街地の約 9 割を焼失したが、市民のたくましい復興意欲のなかで思い切った都市計画が策定され、将来の躍進に備える礎が築かれ、現在は観光・商工業の発展とともに市域も拡大している。九州縦貫自動車道や離島航路が発着する鹿児島港などをはじめ、2011 年 3 月に全線開業した九州新幹線により、南の交流拠点都市としての都市機能はより一層高まっている。

(2) 校区の概要

本校区は、鹿児島市の中央部に位置し、甲突川と新川に囲まれた平坦部と脇田川沿岸から新川にかけての丘陵部及び平坦部、与次郎ヶ浜から金属団地に至る臨海部で構成されている。地区の人口は近年増加傾向にあり、生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）の比率が 67.6%と高くなっている。

また、本校区には、鹿児島大学をはじめとする教育機関が多く、与次郎ヶ浜地区一帯には、市立科学館や市立図書館等の文化施設や鴨池運動公園等のスポーツ施設など、教育、文化、スポーツ・レクリエーション活動の拠点が集中している。

近年、平坦部におけるマンション建設等が進み、人口の増加に伴い、子ども、PTA、学生、高齢者など世代間の交流の場やふれあいの機会を設け、地域経済の活性化や豊かな地域社会の実現に向け、大学と行政、企業、市民等の交流を通じて、効果的な施策の展開が期待されている。

(3) 学校の概要

本校は昭和 22 年 5 月 1 日、「鹿児島市立第九中学校」として発足した。昭和 24 年には「鹿児島市立鴨池中学校」と改称し、昭和 34 年には南中学校が、昭和 42 年には紫原中学校が分離した。

「自律」・「協同」・「根性」を校訓とし、「生きる力を身に付け、心豊かにたくましく生きぬく生徒を育成する。」を教育目標に掲げ、「心を込めた挨拶と作業」を大切にされた学校生活に力を入れている。

生徒の学習意欲は高く、主体的・対話的で深い学びを実現するための一つの方法として、本校独自の学習過程である「かもいけスタンダード」（か：考える も：もみ合う い：意見を述べる け：検討する）の場面を設定した授業実践に取り組んでいる。

2 研究の概要

(1) 研究主題

税について関心を持ち、正しい理解を深め、主体的に行動でき、他者と共によりよく生きようとする生徒を育成する。

(2) 主題設定の理由

私たちが、健康で豊かな生活を送るために、国や都道府県、市町村はさまざまな活動や事業を行っている。それらに必要な費用を賄っている税金は、私たちの生活に必要な不可欠である。

国税庁では、「次代を担う児童・生徒等が、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる。」ことを目的に、租税教育の充実を図っている。本県における租税教育は、「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身に付け、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。」ことにねらいを置いている。

生徒は社会科の授業を通して、1年次に税制度のはじまりについて、2年次に税制度の仕組みの変化について、3年次に現代の税制度について学習する。身に付けた知識と自己の将来とのつながりを見通しながら、国や社会の在り方を主体的に考えることは、きわめて重要なことである。

そこで、租税教育を通して、租税に関心を持たせながら、正しい知識と理解を広げ深め、次世代を担う公民としての資質や国家及び社会の一員として社会の中での権利と義務との関係を学ぶ中で主体性を育て、たくましく生きぬく生徒の育成に努めたいと考え、本主題を設定した。

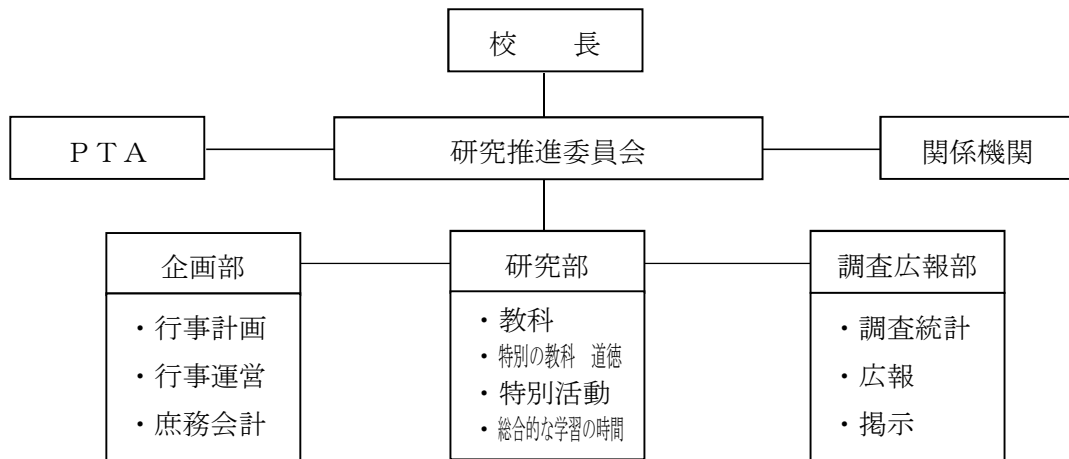
3 研究の仮説

身近な生活や郷土を中心とした租税についての学習を通して、税の意義を理解し、関心が高まり、教科や租税教室等を通して正しい知識を広げ、理解を深めることで、社会を支えようとする態度が育まれ、主体的に行動し、他者と協同して生活をよりよくしようとする生徒を育成することができるのではないか。

4 目指す生徒像

- (1) 租税について、意義を理解し、関心が高い生徒。
- (2) 租税について、正しい知識を広げ、理解を深めた生徒。
- (3) 学級や学校の形成者である自覚を持つ生徒。
- (4) 学校生活の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへ形成する態度を持つ生徒。
- (5) 学校生活における様々な問題を主体的に解決しようとする態度を持つ生徒。
- (6) 学校生活における自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする態度を持つ生徒。
- (7) 秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲のある生徒。
- (8) 地域社会をよりよくしていこうとする気持ちを持つ生徒。
- (9) 郷土に対する認識を深め、郷土の発展に努めようとする態度を持つ生徒。

5 研究組織



6 租税教育全体計画

学校教育目標			
生きる力を身に付け、心豊かにたくましく生きぬく生徒を育成する。			
本県の租税教育の目標	本校の租税教育研究主題	県租推協の租税教育の目標	
租税に関連した事項を通して、郷土について関心を高め、公民としての資質を身に付け、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育成する。	税について関心を持ち、正しい理解を深め、主体的に行動でき、他者と共によりよく生きようとする生徒を育成する。	身近な生活と租税の関わりを生徒が自発的に調査し、研究発表、資料収集を協力して学習することにより、郷土についての理解を深め、主体的に行動できる生徒の育成を目指す。	
各学年の租税教育の目標			
第1学年	第2学年	第3学年	
税について、意義を理解し、関心を高め、自分たちに関わることという自覚を育てる。	税について、正しい知識と理解を広げ、自分たちが生きる社会について考える態度を育てる。	税について、理解を深め、自分たちが社会を担うという意欲を育てる。	
各教科	総合的な学習の時間	特別の教科 道徳	特別活動
各教科の目標に沿った関連指導を行い、税に関する興味・関心を高める。	税に関する実践活動を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考える態度を養う。	税に関する学習を通して、社会参画の意識を高め、よりよい社会の実現に努める態度を養う。	租税教室等の集団活動を通して、集団や自己の課題を解決しようとする自主的、実践的な態度を養う。

7 研究の経過

(1) 令和2年度

4月	・租税教育推進校委嘱の確認 ・全体計画, 研究組織の立案
5月	・第1回税に関するアンケート実施 ・租税教室(全学年)
6月	・生徒会による啓発活動
7月	・夏休み課題「税の作品」への取組(標語, 作文, 書道, ポスター等)
9月	・夏休み課題「税の作品」選出及び応募
10月	・税に関する研究授業の実施(職員研修)
11月	・「税の作品」展示発表 ・令和2年度「鹿児島県租税教育研究会」出席
1月	・租税教室(第2学年) ・第2回税に関するアンケート実施
2～3月	・研究1年目まとめ

(2) 令和3年度

4月	・租税教育推進校1年目の活動の振り返りと2年目の確認(職員研修)
5月	・財政教室(第3学年)
6月	・生徒会による啓発活動
7月	・第3回税に関するアンケート実施 ・夏休み課題「税の作品」への取組(標語, 作文, 書道, ポスター等)
9月	・夏休み課題「税の作品」選出及び応募 ・活動報告のまとめ
10月	・発表準備 ・活動冊子の完成
11月	・「税の作品」展示発表 ・令和3年度「鹿児島県租税教育研究会」発表
12～3月	・研究まとめ

8 研究の実際

(1) 第1回租税教室（令和2年5月19、20日実施）

租税教室は2年間の研究期間を見通し、下図のような構想を立てて実施することとした。

令和2年度		令和3年度
5月 全学年対象	1月 第2学年対象	5月 第3学年対象

第1回目は、「生徒が、国や地方公共団体の行政活動に対する理解を深め、租税についての正しい知識を養う。」ことをねらいとし、鹿児島税務署職員を講師として招聘し、学年別を実施した。

租税教育のスタートとして、クイズ形式で税への関心を高めたり、DVD視聴により税の種類や仕組みを知ったりする機会とした。

(2) 特別活動の取組

税に関する授業では、特別活動の時間に租税教育と関連付けて授業実践を行った。全職員が授業を参観し、生徒の姿を見取り、その姿を基にして授業研究を行った。鹿児島税務署職員も授業参観、授業研究の指導・助言者として参加した。

【税に関するアンケートの結果】

R2.7.27 対象2年1組生徒 37人

① 税について興味がありますか。

1 大変興味がある（1人） 2 少しある（11人） 3 あまりない（22人） 4 全くない（3人）

② 税金についてどんな種類がありますか。知っているものを全て書いてください。略

③ 税金を納めることについてどう思いますか。（一部掲載）

- ・しっかりと国のためや、過ごしやすい生活のため・医療費に使ってくれるのなら良いと思う。（4人）
- ・どんなことに使われているかが分からない。（1人）
- ・せっかく払った税金を無駄なことに使わないでほしい。（1人）
- ・払いたくない。（4人）

④ あなた一人が中学校生活を送るのに、年間いくら必要だと思いますか。

・1000万円～（2人） ・100万円～200万円（9人） ・50万円～99万円（2人）
 ・11万円～49万円（7人） ・6～10万円（4人） ・0～5万円（10人）
 ・5千円以下（1人） ・わからない（2人）

⑤ あなたの周りのどんな所・場所が税金によって作られていますか。（略）

⑥ あなたは月50万円給料をもらっているとします。その中から、いくらまでなら税金として納めてもよいと考えますか。

・10万円（2人） ・5万円（10人） ・2万円（2人） ・1万円（6人） ・0円～5000円（17人）

⑦ 今の日本で、税金をどこに一番使ったらよいと考えますか。

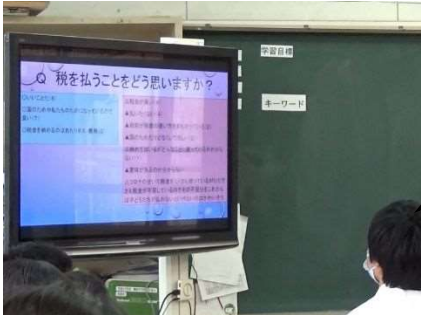
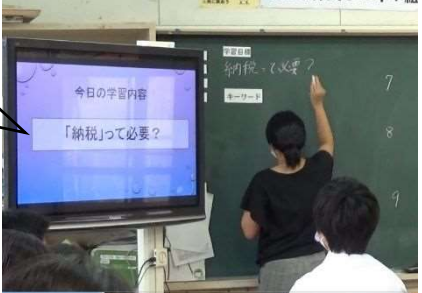

1 災害復旧（17人） 2 医療費、介護など社会保障（7人） 3 子育て支援（6人）
 4 景気を良くする（3人） 5 教育に関する費用（2人） 6 公共施設の充実（0人）
 7 その他 ・国民への給付金（1人） ・回答無し（1人）

【考察】

アンケート結果から、多くの生徒が税金についてこれまで深く考えたことがなく、あまり興味を持っていないことが分かる。また、一番身近な「消費税」においては「取られている」という意識を持っている生徒もいて、「払いたくない」、「なくしてほしい」などマイナスイメージを持っている生徒が多い。これは、ほとんどの生徒が、給料をもらった時に税金として納めてもよいと考える金額を「0円」または、「少額」としていることから分かる。多くの生徒が、公共施設の利用や学校生活を通して自分たちの身近で税金が使われていることも知っていて、私たちの生活が税金によって支えられているということを知っている。税金の大切さを感じてはいるが、いざ自分が納めるとなると、あまり積極的になれない現状があることが読み取れる。

【本時の目標】

- 私たちの生活において税金が重要な役割を果たしていることに気付く。
- 税金を納めることの大切さに気付く、将来職業に就き、税を納める立場になる者として、納税で社会に貢献する気持ちを育成する。

【学習活動・学習内容】	【生徒の学習の様子】
<p>導入</p> <p>上記のアンケートを知り、納税の必要性を意識させ、本時の学習課題を確認する。</p> <p>展開 1</p> <p>学校生活と税の関わりに着目し、「生徒一人が鴨池中学校に通うのに、1ヶ月いくら必要でしょうか。」という問いについて考える。</p>	 <p>税金払いたくないって人が多いんだなあ…</p>  <p>本当に納税って必要なのかな？</p>  <p>教科書なんかには税金が使われてるね。どれくらいだと思う？</p>

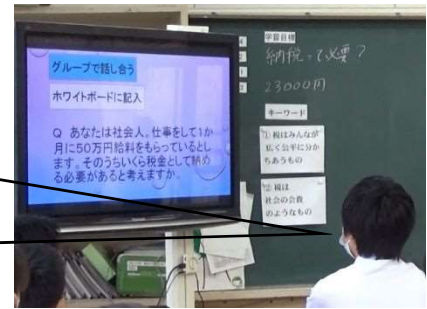
展開 2

DVD「ご案内しますアナザーワールドへ」を視聴し、納税の公平性や必要性についての理解を深め、再考する。



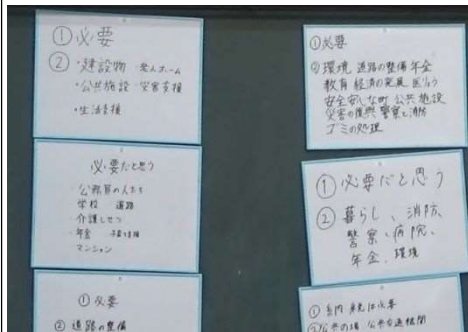
(そうか・・・)
(なるほど・・・)
(たしかに・・・)

「税はみんなが公平に広く分かちあうもの」
「税は社会の会費のようなもの」か…



終末

本時の学習課題について、学習したことを振り返り、簡潔な文章でまとめる。

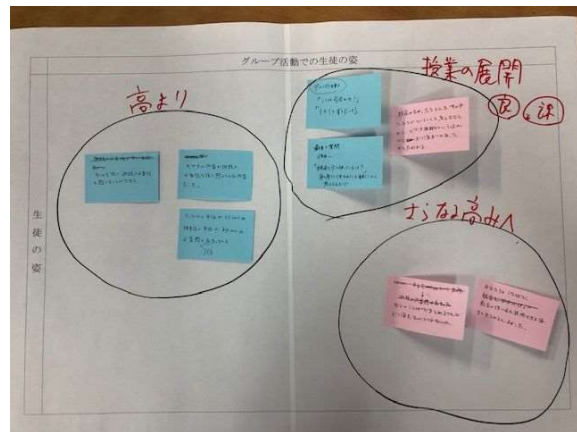
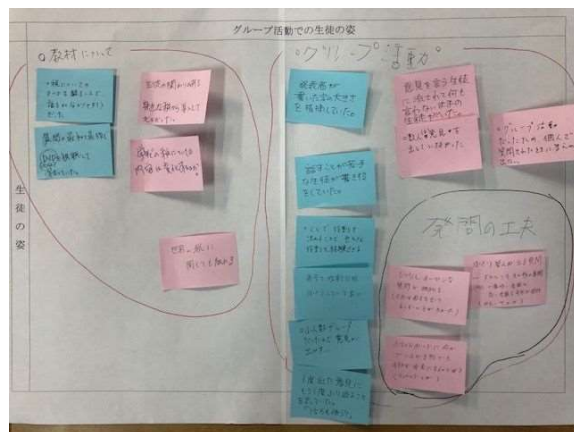


今日の授業を通して、どのグループも納税は必要って思うようになったんだ！

【生徒の感想から】

- ・ 5時間目に“税”について詳しく学んだ。たくさんの方々が見に来ていたので、いつもと違う空気で少し緊張してしまっていたが、自分たちなりに税について、より一層学ぶことができたと思う。今後に活かしていけるようにしたいと思った。
- ・ 今日の税の授業、少し緊張しました。1ヶ月で生徒1人に約8万5千円使っていることに驚きました。税はいろいろなことに使われているのだなと感じました。

【授業研究での意見交換】



授業研究での意見

【良かった点】

- ・ 話し合いに積極的な様子が見られた。
- ・ 映像が分かりやすかった。
- ・ 納税が身近な暮らしに関係することが伝わっていた。
- ・ 学校と関係した内容で考えやすく、価値観に変化が生じていた。
- ・ 納税は必要だ、ありがたいと感じている様子だった。
- ・ 4人グループの編成で話し合いがしやすく、一人の「15万」に対し、他が「そうか?」と深め合っていた。

【改善点】

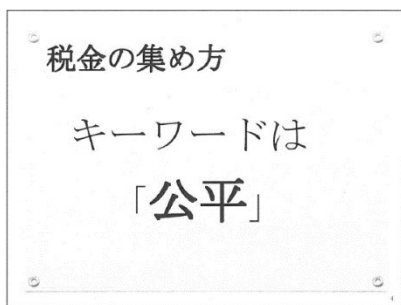
- ・ 税が生活のどこに使われているかをもう少し考えてからビデオ視聴に入れるとよかった。
- ・ タイムリーな話 (Go to など) があればもっとよかった。
- ・ 最後の「納税は必要?」を「なぜ必要?」とオープンクエスチョンにしてもよかった。
- ・ 自分の言葉でまとめる時間をもっとあればよかった。

【指導・助言】

- ・ 事前のアンケートで租税に対する関心が明らかになり、実態がよく分かった。
- ・ 「税は高い」→「なぜ高いのか?」と考え、グループの場で自分の意見を発表できていた。
- ・ 累進課税の話や税は身近にもっと存在していることに気付かせられるとよかった。
- ・ 将来、社会の参画者として税を納めること、公平に負担することを意識できる内容だった。

(3) 第2回租税教室 (令和3年1月21日実施)

第1回租税教室で租税教育をスタートし、特別活動の授業において納税の必要性について考えてきた。それらを踏まえ、第2回租税教室は、「公平に税金を集める」ことをテーマに、鹿児島税務署の税務広報広聴官を講師に招聘して実施した。



① 税金を公平に集めるにはどうしたらよいだろう



みんなから同じ金額を集める

	持つてるお金	集めるお金	残り
Aさん	700	100	600
Bさん	250	100	150
Cさん	50	100	▲50
計	1,000	300	700

みんな同じ金額だから平等だね!
何でAさんと同じ金額なの!
払えないよ!

特定の人が全額負担する

	持つてるお金	集めるお金	残り
Aさん	700	300	400
Bさん	250	0	250
Cさん	50	0	50
計	1,000	300	700

私だけ払うの?
ラッキー!
ラッキー!

② 生徒の考えは同じ率で集めるに偏った

③-1 集め方の例示

③ みんなから同じ率で集める

	持っているお金	一律30%	残り
Aさん	700	210	490
Bさん	250	75	175
Cさん	50	15	35
計	1,000	300	700

「まだ足りないよ！生活できない！」

③ 負担する能力に応じて集める

	持っているお金	累進税率	残り
Aさん	700	245 (35%)	455
Bさん	250	50 (20%)	200
Cさん	50	5 (10%)	45
計	1,000	300	700

「しつがないかい！」
「これは公平ね！」
「これなら払える！」

④ いろいろな組み合わせたら公平かな？

みんなから平等に集める

特定の人が金額負担

同じ率で集める

負担する能力に応じて集める

消費税
固定資産税
自動車税
酒税
たばこ税
法人税
所得税
相続税
贈与税

③-2 集め方の例示

④ 集め方に工夫していることを知る

「公平」というキーワードを聞いた際に、生徒は「持っているお金」から平等に集めるには「割合」の考え方を使えばよいことに気付いた。全体的に考えが偏ったところで、税には様々な種類があり、税の種類によって「平等に集める」、「特定の人から集める」、「同じ率で集める」、「能力に応じて集める」などの工夫をしていることを知った。毎日の生活の中で、聞いたことがある税金の種類は、「公平」に集めるための工夫であるという一面を知ることにより、税の意義や役割、納税の義務などについて理解を深める機会となった。

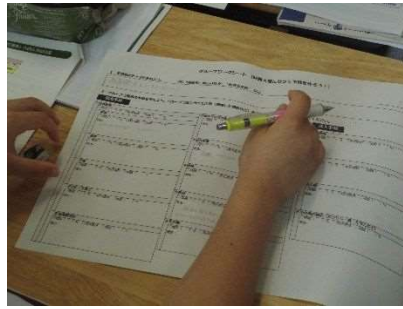
(4) 財政教室（令和3年5月20日実施）

これまでの取組で深めてきた知識を、第3回目の租税教室では、実践する場面として位置付けた。講師に財務省九州財務局鹿児島財務事務所職員を招聘し、財政教室を行った。

【学習活動・学習内容】	【生徒の学習の様子】
<p>導入</p> <p>財政について説明を聞き、理解を深め、学習課題を知る。</p>	<div data-bbox="651 1160 1098 1489"> <p>財政についてワークシートにまとめる。</p> </div> <div data-bbox="657 1585 949 1653"> <p>日本の財政クイズ！</p> </div> <div data-bbox="992 1505 1417 1818"> </div> <div data-bbox="705 1886 1391 1989"> <p>学習課題</p> <p>財務大臣になって予算を作ろう。</p> </div>

展開

グループでどのような社会にしたいか話し合い，テーマを決め，タブレット端末を使って予算を作り，発表する。



どんな社会にしたいか話し合う。

理想の社会の実現のために，税金をどのように使えばよいか意見を出し合う。



終末

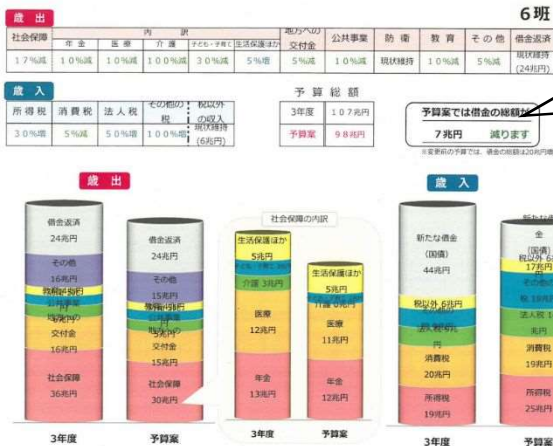
振り返りをする。



発表する。

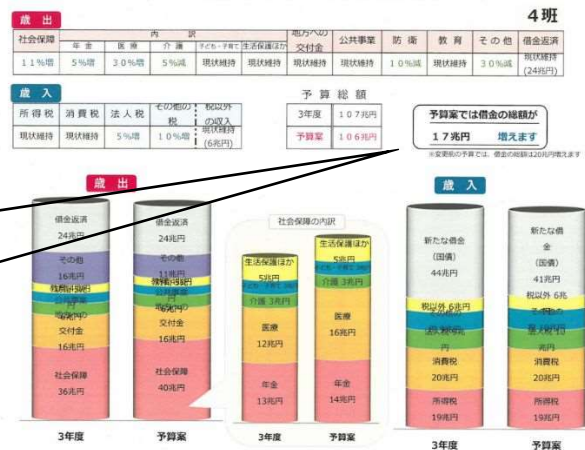
【予算案】

財務大臣になって予算を作ろう！



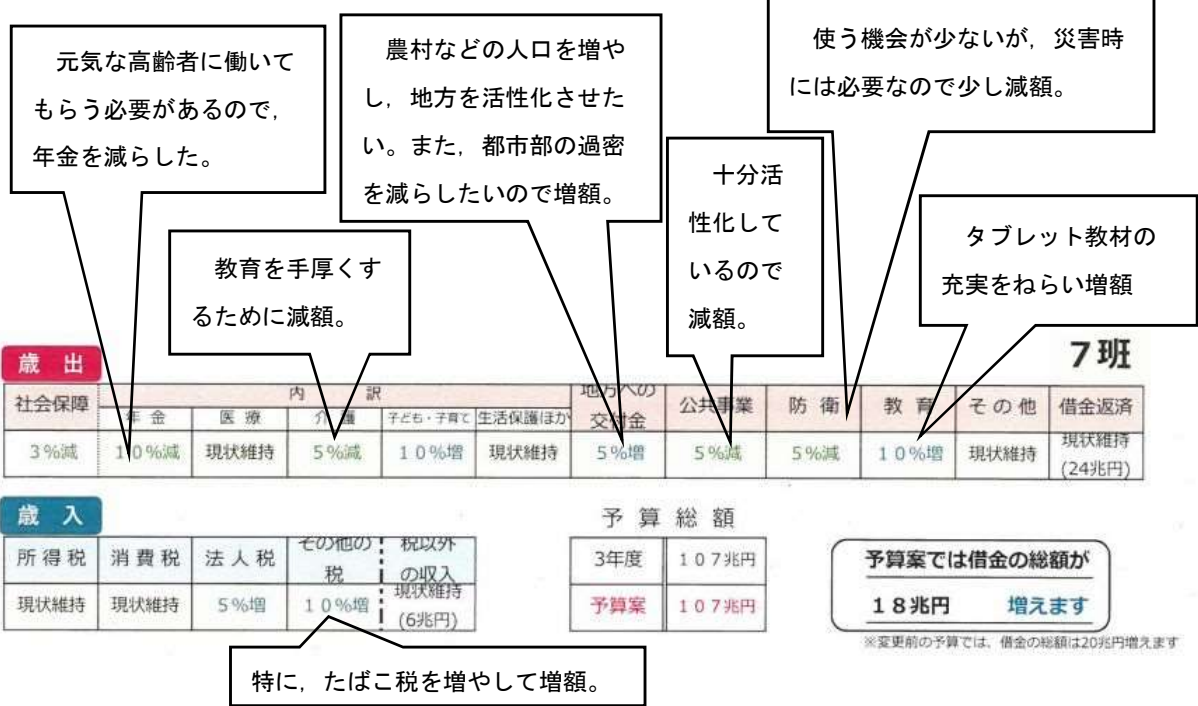
社会保障や公共事業，教育への歳出を削減し，所得税や法人税などの歳入を増やすことで，借金が7兆円減る予算案を提示。

財務大臣になって予算を作ろう！



医療保障を手厚くし，他は現状維持または減額して歳出が増え，歳入は現状維持とすると，借金が17兆円増える予算案となった。

【発表例 子育てのしやすい社会】



【生徒の振り返り】

- 予算の内訳などを初めて理解した。また、国がどのようなものに一番予算を使っているかというのも初めて知った。高齢者中心にするか、子育て中心にするか難しい課題もあった。だからもっと日本の財政にも興味を持って、ニュースなども見ていきたい。
- つい最近、消費税が10%にアップし、国のためだとは分かっているが、「なんで上げるんだよー。」と思ってしまう自分がいた。しかし、この時間を通し、決めるのは大変だし、国のことを理解することが大事だと思った。
- 税についてあまり知らなかったけれど、今日の授業でたくさん知ることができた。また、グループ活動での話合いの時に、「こんなに税ってたくさんあるんだ!」と思った。「税がなかったらいいのに。」と思ったことはあったので、その時の自分に「税はなくなってはいけないんだよ」と言ってあげたい。
- 限りある予算でいろんなサービスの充実や削減を考えるのはとても難しいと思った。あれもこれもと複数のサービスを同時に充実させるのが、どうしても不可能なので、とても判断に迷う仕事だと思った。

日本の財政に対するイメージについて、あてはまるものを選んでください。

	A	B	C	D
① 財政について関心がある。	31.4%	54.3%	11.4%	2.9%
② 財政は自分にとって関係のあることと感じる。	57.1%	22.9%	20.0%	0.0%
③ 財政について、家族・友人等と話してみたい。	23.5%	38.2%	32.4%	5.9%

(A : たいへんそう思う B : そう思う C : あまりそう思わない D : まったくそう思わない)

(5) 税に関する作品

夏休み課題として国語科から「税に関する作文」、「税に関する習字」の作品募集を選択制で行っている。本年度は、税に関する作文を選択した生徒が例年より多かった。租税教育での経験を題材として自分の意見を述べ、生徒の成長が感じられる取組となった。生徒の作品を紹介する。

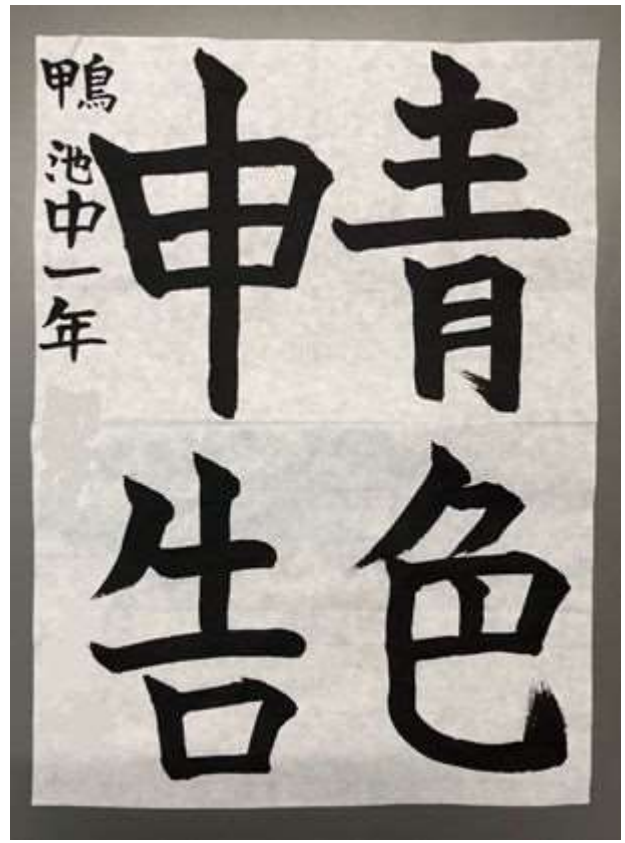
税の授業を通して考えたこと

僕たちの中学校では、財務省の方々が来られて、税についての授業がありました。その授業の中で、国の支出と収入のことなどを学びました。授業の最後に六つのグループに分かれて、渡されたタブレットで国家予算を自分たちで組んで発表する場面がありました。六つのグループのすべてに共通した意見は、子供への教育費の使われ方についてのものでした。

子供への教育費は、教科書や最近配られたタブレットなど、多種多様なものに使われていますが、出てきた意見の大半は、高等学校や大学などの授業料に関する意見でした。そのことについて調べてみたところ、日本の国立大学の平均入学金は約三十万円、年間授業料の平均は約五十五万円となっていました。ヨーロッパなどでは、親の所得によって異なりますが、ほとんどお金がかからず大学に行くことができます。

もう一つ調べて気になったのが、奨学金を返済できずに自己破産する人が増えているということです。たとえば、僕が東京の大学に行くとなると、家賃や食費、それに授業料、医療費など多額の出費が必要となります。僕の家はサラリーマン世帯で、三人兄弟なので親に負担がかかることを考えると、とても心苦しくなります。ましてや、私立大学などは以ての外です。

僕は、将来的には大学に進学して、経済について学びたいと思っています。親に迷惑をかけることなく、大学まで進学したいと思っています。そのために、大学の授業料が少しでも安く済むような仕組みができればいいなと思っています。そのために僕ができることは何か考えてみました。その結果、納税の義務をきちんと果たすことが最も重要だと考えました。今は、親が払っているけれど、僕もきちんと働いて、納税していくことが大切だと思います。(3年生男子生徒)



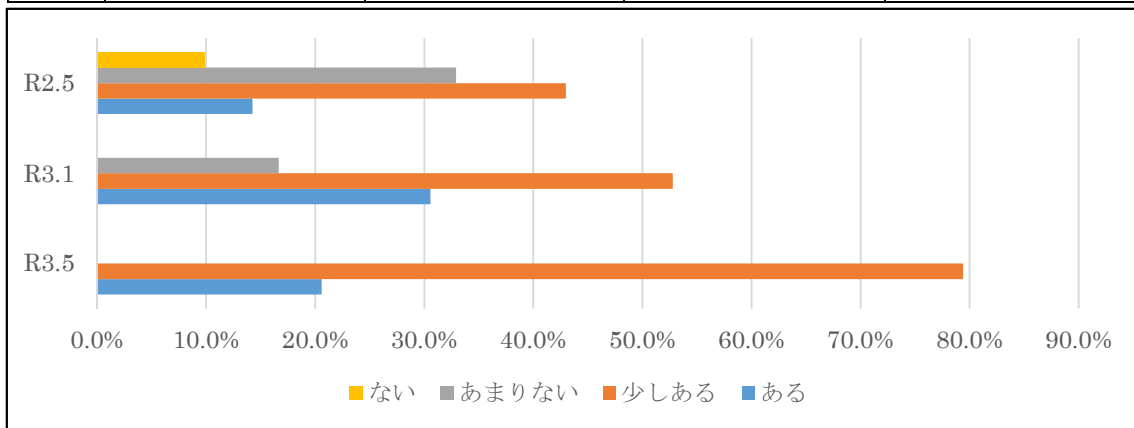
9 研究の成果と課題

(1) 税に関する実態調査の結果

租税教育を経て、生徒の意識や考えがどのように変容していくかを見取るため、令和2年5月、令和3年1月、令和3年5月の3回に渡って実施した。

1 税の使い方について興味・関心がありますか。

	ある	少しある	あまりない	ない
R2.5	14.3%	43.0%	32.9%	9.8%
R3.1	30.6%	52.7%	16.7%	0.0%
R3.5	20.6%	79.4%	0.0%	0.0%

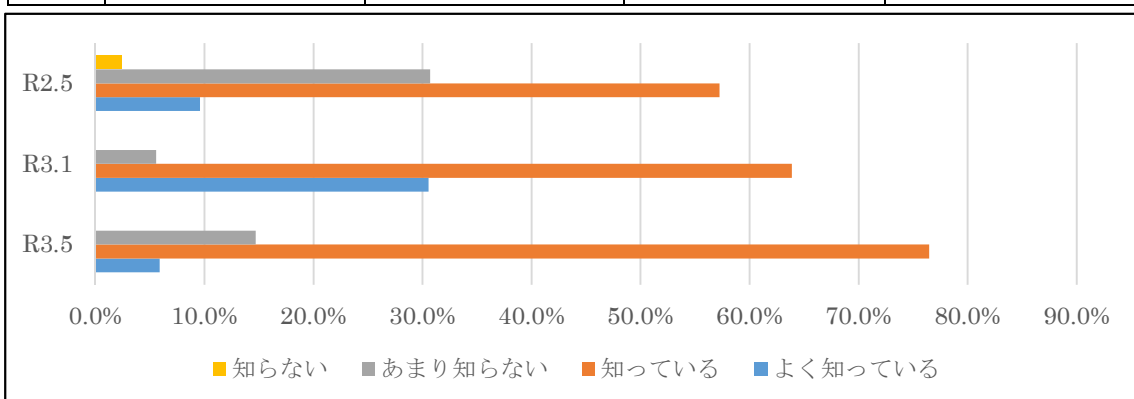


【考察】

令和2年の租税教育開始時には、全体の4割以上が税に対して興味・関心がない状態であった。特別活動の授業や、租税教室を重ねていくことで、税に対する知識が増え、興味・関心がなかった生徒の半数以上に変化があったことが分かった。租税教育2年次には、全体が興味・関心があると答えるに至った。「知らない」、「考える機会がない」ことにより興味を持たず、関心も高まることになかっただけであり、租税教育を機に、税について多くの知識を得たり、考えたりしたことで、劇的な変化が明らかになった。

2 税はどんなことに使われているか知っていますか。

	よく知っている	知っている	あまり知らない	知らない
R2.5	9.6%	57.2%	30.7%	2.5%
R3.1	30.6%	63.8%	5.6%	0.0%
R3.5	5.9%	76.5%	14.7%	0.0%

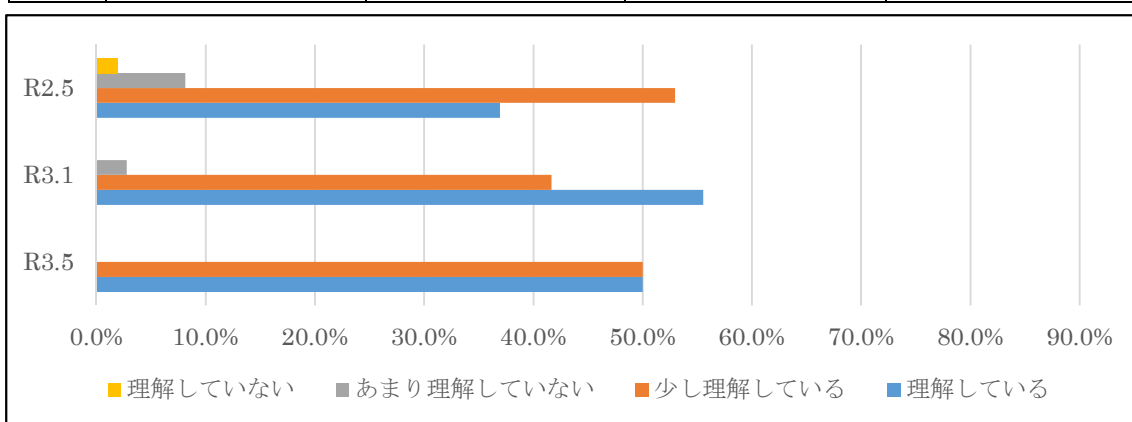


【考察】

上記質問1にも示されている通り、税に対する興味・関心が低かったため、使われ方についても知らなかったり、否定的だったりした実態があった。この項目についても学習を重ねることで、知識を身に付け、「知っている」という意見が増加した。2回目のアンケート結果において、「知っている」が非常に高い値になっているのは、租税教室で税の種類について学習した直後だったからではないかと考えられる。

3 税を納めることは「国民の義務」であることを理解していますか。

	よく理解している	理解している	あまり理解していない	理解していない
R2.5	36.9%	53.0%	8.1%	2.0%
R3.1	55.6%	41.6%	2.8%	0.0%
R3.5	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%

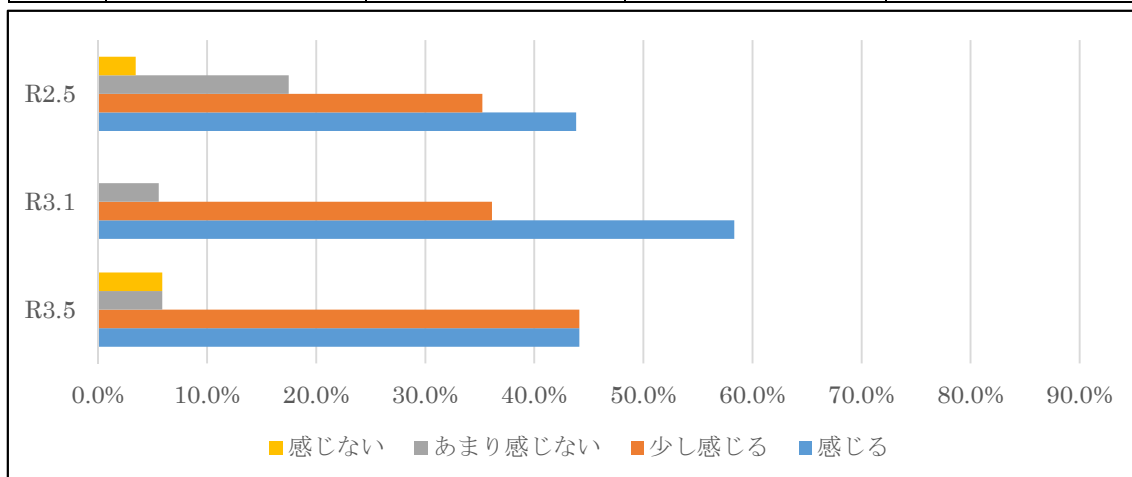


【考察】

社会科の授業で学習していることもあり、2年間を通して高い値を示している。若干名ではあるが「国民の義務」であることを理解していなかった生徒も、2年間の租税教室を経て、最終的にはある程度の理解を示す結果となった。

4 税が私たちの生活に役立っていると感じますか。

	感じる	少し感じる	あまり感じない	感じない
R2.5	43.8%	35.2%	17.5%	3.4%
R3.1	58.3%	36.1%	5.6%	0.0%
R3.5	44.1%	44.1%	5.9%	5.9%

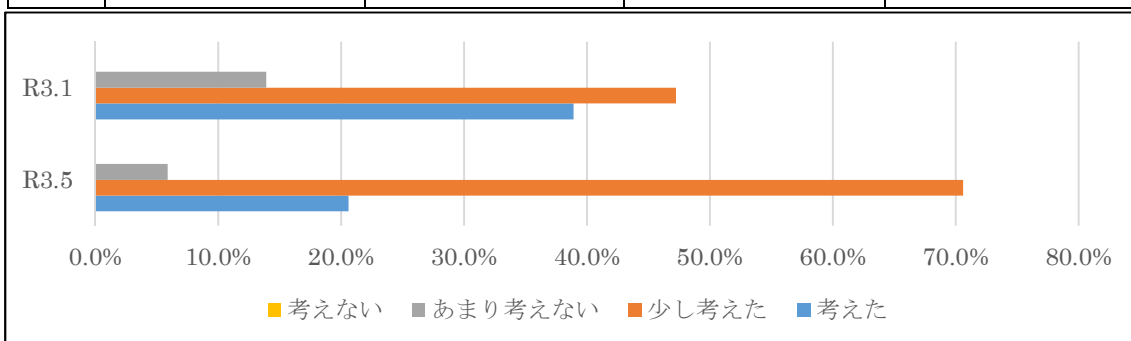


【考察】

租税教育開始時は、税に関する興味・関心は低いものの、7割を超える生徒が、税金が私たちの生活にもたらす恩恵を感じていたことが分かる。上記質問2の結果で、令和3年5月の結果において、1割強の生徒が、どんなことに使われているか知らないと答えており、生活に役立っていると感じていない生徒も1割強である。「どんなことに使われている」かが分かれば、「生活に役立っている」ことも感じられることが明らかになったといえる。

5 税についての学習を通して、よりよい社会にするために自分ができることを考えましたか。

	考えた	少し考えた	あまり考えない	考えない
R3.1	38.9%	47.2%	13.9%	0.0%
R3.5	20.6%	70.6%	5.9%	0.0%



【考察】

租税教育を経て、生徒が社会参画を自分のこととして捉えることができたかどうかを見取る項目として設定したため、令和2年5月の実態調査にはない質問である。租税教室や特別活動の授業を通して、税に対する捉え方が変化していく中で、自分には何ができるだろうと自問自答する生徒が明らかに増えてきていることが読み取れる。特に、財政教室では、よりよい社会の実現のために予算案を考える経験を得た。その直後だったことも数値に影響を与えていると考えられる。

6 この2年間で税について学んだことで、自分の考えがどのように変化したかを教えてください。

最初は、あまり税について興味がなく、どのようなことに使われているか知らなかったが、授業を通して、税が生活に役立っていることをよく知ることができた。また、自分たちが納めている税の使い方についてもよく考えようと思うようになった。

今まで私は、税金は私たちからお金をとりあげるだけのあまり良い印象のもたないものだと思っていました。ですが、税に関して学ぶようになったから、税の大切さを知ることができ、私もこれから大人になったらしっかり払おうと思いました。

2年前の最初と比べて、より税に関する知識を得ることができ、今まで知る機会が無かったことを2年間の間に詳しく知ることができ、とてもうれしかったです。また、これから自分の人生に学ぶことを生かしていけるように、がんばりたいと思います。

正直私たちが払う消費税は本当に国のために使われているのかと思っていましたが、実際に税金というものが行く行ったところの町の様子などをDVDで見て今だとおっしゃる社会になることを深く感じました。国のためにモロやかにお金を納めることが大切だと思いました。

今まで、ばくせんと税は「お金の」「義務」と考えていただけでしたが、授業で、講師の話を聞き、あらためて、税金というものがどれだけ生活の中に役に立っていて、大切なものかおぼろしくなるようになりました。

税は大切なのは知っていたが、面どうくからたり、はらうのがいやだと思っていたが、授業を2年間うけてきて自分の今と将来に役立つように使われていることを知り、さらに税の大切さを知ることができた。

あまり、税について、学ぶ機会や、知る機会が今までに無く、社会の授業でしか、学べなかったので、今まで行ってきた授業はとても楽しく感じた。

税金って自分でかいたお金とかをもらって、税金……って最初は思っていたが、税の授業を受けて、とんだけ税金が大切で役にたっているのかを知ることができました。

税の種類とその重要性について知ることができた。税を納める義務としか理解し、自分が納めなければいけない税を納めようと思う。

税金の使いわけや、税金がどのように役に立っているのかを知ることができた。「税」と聞くと「嫌だ」「難しい」と思っていたけれど身近なところで役に立っているんだなと思った。

消費税なんて税というのが、あまり好きではなくて、みんな税があるんだろう、と思っていたのに授業を聞いて自分たちが払っている税が国のためにつかわれていることを知ったので、少し興味をもちました。

もとも「消費税は何で払うの？」「いらないでしょ」と思っていたけれど「話しがビデオを見て日本を守るためのもの」としても思いました。

税の使いわけについて、まだ若い私たちから見れば介護に使う割合が多すぎると思っていたが、ニュースを見たり、教室でさらに詳しく学んだりしたら、今の割合、または今の割合よりもう少し増やしてもいいのではと思うようになった。

最初は、税金上がっていやだなや何に使われているのだろうと思っていたけれど、たくさんの授業を受けて、自分たちが、安全に暮らすことができるのは、税金のおかげだと知ることができました。

【考察】

ほとんどの感想から、知らないということが税に対するマイナスイメージにつながっていることが読み取れる。租税教育を機に、知識を身に付けることで、税が自分たちの生活を支えている実感を持つことができ、それを学ぶことを楽しいと感じる生徒がいたことも分かった。また、納税がなぜ義務なのかということも考えるようになっていたり、よりよい予算の組み方があるのではないかと疑問を持ったりするなど、社会参画への意識が高まっている記述も見られる。

(2) 成果と課題

- 多くの生徒が、租税教室や特別活動等を通して、租税について正しい知識と理解を広げ深めることができ、納税の義務や税金の使い方について主体的に考えることができた。
- 租税に対する関心が高まり、自分たちの生活の中で恩恵を受けていることに気付くようになり、よりよい使い方にするためにはどうしたらよいかという視点が生まれ、社会参画への意識を高めることができた。
- 税に関する研究授業を行った際には、事前の授業準備から授業研究まで、教科を超えた取組を行うことができ、教師の授業力向上につながる取組となった。
- 租税教育と特別活動を関連付けて行った授業は大きな成果を残すことができたものの、道徳科や総合的な学習の時間においては関連付けが十分でなかったところがあり、教育課程の工夫が必要である。
- 生徒会による啓発活動は単発的、短期的な啓発にならないよう、継続的、長期的な見通しを持った取組が望ましい。
- 今回の研究では、租税教室や財政教室は、場所、人数、時間、ツール等の理由からすべての生徒が受講できたわけではないが、生徒の意欲を引き出し、高めることができる取組であり、全生徒が受講できる工夫が必要であると痛切に感じている。

10 おわりに

令和2年度から3年度までの2年間にかけて、鹿児島県租税教育研究委嘱校として、本校の実態を踏まえ「税について関心を持ち、正しい理解を深め、主体的に行動でき、他者と共によりよく生きる生徒を育成する。」を研究主題として掲げ、研究・実践に取り組んできた。この2年間の取組の成果を基盤として、これからの世界を担う本校生徒たちが、主体的に自ら考え、隣人と手を取り合い、よりよい社会を目指して生きていこうとする一助になれば幸いである。

最後に、鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、鹿児島税務署、鹿児島財務事務所、その他関係機関の方々には、コロナ禍で制限の多い社会情勢でありながら、足しげく本校に出向いてくださり、懇切丁寧な御指導と御協力を賜った。本研究を無事に終えることができたことを、心から御礼申し上げたい。